

道徳科学習指導案

指導者	郷地 若葉 (T1) 向井 大 (T2)
教材名	裏庭でのできごと
主題名	誠実な生き方
内容項目	A- (1) 自主, 自立, 自由と責任
学年・組	1年2組 (男子19名 女子13名 計32名)
場 所	1年2組教室

主題観

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。したがって、深く考えずに多数派に付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。どのような小さな行為でも、自分で考え、自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はその行為に対して責任をもつようになる。そこに、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれ、自らの責任によって生きる自信が育ち、一個の人間としての誇りがもてるようになる。人間としての誇りを守り、その誇りに従うことが、誠実な生き方につながるのである。

本教材「裏庭でのできごと」では、遊び仲間である主人公の健二、雄一、大輔の3人は、裏庭で物置の窓ガラスを2枚割ってしまう。大輔が先生に対して割った理由をごまかしたことから、健二は思い悩み始める。悩んだ末に自ら結論を出した健二の姿から、誠実な生き方とは、「ごまかせるかも知れないという心の弱さに打ち克ち、逃げない心や自分の誇りを大切にしたい生き方である」ということを考えることができる教材である。

生徒観

本学級の生徒は、「道徳科の勉強はためになる」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が86%と高く、道徳科の必要性を感じている。しかし、「道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が55%と低い状況である。授業においては、素直な気持ちを積極的に発言する生徒が多く、本音を出し合いながら考えを深めていくことができる。

本授業の内容項目に関連して、「よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒は89%と高い。しかし、これまでの学校生活や問題行動の様子を見ると、周りの考えや行動に同調してしまったり、責任を誰かに転嫁してしまったりする状況がある。また、ごまかせるかも知れないという弱い心に負け、自分の失敗を正直に言えない生徒も見られる。

事前アンケートの結果

質問内容	肯定的回答
道徳科の勉強は好きだ	79%
道徳科の勉強はためになると思う	86%
道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	62%
道徳科の授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている	72%
道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	55%
よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている	89%

指導観

健二、雄一、大輔の3人の人物像を批判的に捉えるのではなく、自分にも同じような心の弱さや経験がないか共感的に捉えさせ、自分事として考えられるようにしていく。中心発問では、健二の行動を支えた思いを考えさせ、「誠実」という抽象的な道徳的価値を支える考え方をさせ、多面的な考え方を引き出していくために、生徒同士の対話を仕組んだり、繰り返し問い返しをしたりしていく。授業の終末では、中心発問で見出された考え方を自分のことを振り返り、自分の生き方に照らし合わせながら整理させ、自分の生活にいかされるようにしていく。

本時の学習

(1) 本時のねらい

誠実さは自分の弱さから逃げない心や誇りから生まれることを理解し、自分の行動に責任をもち、自らを律し、誠実に生きようとする判断力を育てる。

(2) 評価

誠実な生き方を支える逃げない心や自分の誇りに気づき、自らも誠実に生きようとする発言や記述が見られる。(授業での発言とノートへの記述で評価)

(3) 本時の学習展開

	学習活動	主な発問・予想される生徒の反応 ○：発問 ◎：中心発問 補：補助発問 問：問い返し	指導上の留意点 発問の意図 手立て
導入 5分	1. 主題について課題意識をもつ。	○誰も見ていないところで、何か失敗してしまった時、どんなことを考えるか。 ・ごまかす ・正直に言う	・具体的な場面を出して考えさせる。
展開1 20分	2. 範読を聞き、登場人物や状況の確認をする。	○ガラスが割れた時、3人はそれぞれどんな行動をとったか。 健二：正直に言えなかった 大輔：自分の都合が良いようにごまかした 雄一：ガラスを割ったことを先生に報告した	・3人の人物像や行動を共感的に捉えさせる。
展開2 20分	3. 葛藤している健二の心情を考える。	○大輔から「俺を出し抜いて先生のところなんて行くなよ」と言われた時、健二はどんなことを考えていただろうか。(ペアトーク) ・このまま黙っていれば、ばれないだろう ・大輔との仲を悪くしたくないから先生のところへは行かない 補雄一に対してどんな気持ちがあるだろうか。 ・謝りに行った雄一に申し訳ない	・「友情」という価値に流されないように扱う。 ・ペアトークを用いて、個人思考の手助けをする。
展開2 20分	4. 健二の行動を支えた思いについて考える。	○健二が鏡の前で苦しく、情けない表情をしているのはなぜだろうか。(ペアトーク) ・正直に言わずに逃げてしまった ・ごまかしたままでいたくない	・健二が自分自身の行動や考え方と向き合い、葛藤していることを捉えさせる。
展開2 20分	4. 健二の行動を支えた思いについて考える。	◎次の日、健二を職員室へ向かわせたものは何だろうか。(個人→班→全体) ・心のもやもやをすっきりしたいという思い ・ごまかさず、正直に伝えようという思い 問そうすることで健二が大切にしようとしているものは何だろうか。 補健二は自分のどんな気持ちを大切にしようとしているか。 ・自分から逃げない心 ・正しいと信じることをしようとする心 ・自分の誇りや価値を大切にすること	・問い返しや補助発問をしながら「誠実」という道徳的価値を支える考え方を多面的に出させる。
終末 5分	5. 誠実な生き方について、自分事として考える。	○これから自分が誠実な生き方をしていくために、どんなことが大切だろうか。	・自分の生き方を振り返りながら記入させる。

(4) 板書計画

裏庭のできごと

健二の
場面絵

大輔の
場面絵

雄一の
場面絵

○大輔から「俺を出し抜いて先生のところなんて行くなよ」と言われた時、健二はどんなことを考えていただろうか。

○健二が苦しく、情けない表情をしているのはなぜだろうか。

考えて
みよう

次の日、健二を職員室へ向かわせたものは何だろうか

自分に
+1

これから自分が誠実な生き方をしていくために、どんなことが大切だろうか。